

## 日本人学習者の中国語の発音に関する一考察

凌, 志偉 / Ling, Zhi Wei

---

(出版者 / Publisher)

法政大学言語・文化センター

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

言語と文化 / 言語と文化

(巻 / Volume)

4

(開始ページ / Start Page)

131

(終了ページ / End Page)

148

(発行年 / Year)

2007-01-31

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00002778>

## 日本人学習者の中国語の 発音に関する一考察

凌 志 偉

中国語の発音は難しいとされている。筆者は長年 LL 教室を使って、中国語コミュニケーションなど、会話系の授業を担当してきたが、今まで蓄えてきたデータを元に、問題点を整理し、自分なりに考案した解決策をまとめた。発音の矯正の過程はすべてヘッドホーンを通して行っているため、本当に解決したかどうかは自信を持っている。

有気音と無気音の違いは学習の最初の過程でぶつかる問題だが、長年解決できなかったこの問題も、ちょっとしたきっかけでうまく解決できた。〈u〉を含み、〈n〉で終わっている発音も学習者にはなかなか厄介な問題であるが、口の動かし方をきちんと説明すれば、できるようになることが分かった。

〈iou〉と〈üan〉の発音は理論上のものと実際とはかなり違うのに、中国で出版された専門書でもこのことにあまり触れていない。今回の結論に達するまで、多くの模範朗読テープ、CD や DVD などを使っている。

ヘッドホーンを通して、学習者の朗読を聞いていると、半三声の問題に良く出くわす。これについては、問題の所在を明らかにし、提言を行った。

軽声はたとえ中国人でも覚えるしかないのだが、どの程度が適当なのか、その範囲についてまとめた。また、標記上、軽声ではないのに、実際の発音においては軽声になっている言葉も多い（参考文献 1）。普段、このことに触れることはあまり多くないと思うが、この種類の軽声についても言及した。

儿 (r) 化は今日の‘普通話’において、あまり大きな役割を果たしていない。参考文献 2 は日本人向けの専門書だが、この問題をまったく無視しているほどである。テレビドラマのうち、北京を舞台にしている現代のトレンドドラマも‘儿話’はさほど使われていない。各朝刊の重要なニュースを会話調で紹介するテレビニュース（例えば‘马丁读报’）を見ても、‘儿話’が使われるのは‘事儿，活儿，点儿’と言った程度である。従って、ここでは実用の観点

から 'i, o, n' に続く 'r' だけ取り上げた。

## 声 母

- b (o)** 上下の唇を閉ざし、少し空気を蓄え、ゆっくりと口を開ける。できるだけ空気を出さない無気音。

問題点と対策：bは無気音だが、どうしても有気音になってしまう人がいる。日本語には清音と濁音のような区別しかないが、濁音のつもりで発音すると、中国人の耳には有気音に聞こえてしまう。ところが日本人学生に英語の〈bar〉という字を読ませると、みんな無気音に発音する。(少なくとも中国人の耳にはそう聞こえる。)そのため、〈bar〉を読ませてから、〈bo〉を発音させることにしている。今まで一度も失敗したことがない。

- p (o)** 上下の唇を閉ざし、ある程度空気を蓄えから、口を開けて、強く空気を吐き出す。有気音なので、強く空気を出す必要がある。

問題点と対策：有気音全般に言えることだが、空気の出し方が足りないことが多い。

日本語の(ぼ)は中国人の耳からすると、やはり弱い。伝統的に使われている〈紙を揺らす方法〉は効果的だが、すぐにはできない人も多い。ただ根気良く続ければ、習得できるようになる。

- m (o)** 上下の唇を閉ざし、口を開けて発音する。

問題点と対策：日本語の〈も〉とほぼ同じ発音なので、難しくない。

- f (o)** 上の歯が下の唇のかなり後ろの部分で噛んで発音する。歯と唇による摩擦音。

問題点と対策：初心者は良く日本語の〈ふ fu〉のつもりで発音し、唇を噛むのを忘れがち。唇を噛みながら、発音するように指導すれば良い。

〈fu〉の発音の時、最初は歯で唇を噛むが、すぐに噛むのを止めて、引続き〈u〉の音を発音しなければならない。

- d (e)** 舌の先を上歯茎に置き、少し空気を蓄えてから、ゆっくり口を開ける。できるだけ空気を出さない無気音。

問題点と対策：中国語の〈e〉の音は初心者にとって少々難しいので、

〈d, t, n, l〉に関しては、むしろ〈da, ta, na, la〉から教えたほうが習得しやすい。

〈d〉は上記の〈b〉と同様、どうしても有気音になってしまう人(今までの体験から言って1割強)がいるが、同じく英語の〈dark〉を読ませてから、〈da〉の発音をさせると、不思議なことにたいていうまく行く。

- t (e)** 舌の先を上歯茎に置き、ある程度空気を貯めてから、一気に空気を強く出して発音する有気音。

問題点と対策:〈ta〉に関しては、舌や筋肉の動かし方は日本語の〈た〉とほぼ同じですが、空気を出す量に大きな違いがある。努めて空気を出すように指導すればよい。また〈tu〉の発音は日本語の〈つ〉にならないよう、注意する必要がある。

- n (e)** 舌の先を上歯茎に置き、鼻にかけて発音する。

問題点と対策:中国語の〈na〉は日本語の〈な〉とほぼ同じなので、難しくない。

- l (e)** 舌の先を上歯茎に置く。(〈n〉の時より少し上)舌の前部の両側は歯と接触するが、後ろの両側は歯と接触しない。鼻にかけない。

問題点と対策:日本語にも同じ発音があるので、難しくない。ただ日本語は〈r〉で表記しているが、中国語の〈la〉は日本語の〈ら〉とほぼ同じ発音です。

- g (e)** 舌の先を下歯茎に置き、舌根を持ち上げ、舌面は平らで、いくらか空気を貯めてから、努めて空気を出さないように発音する。無気音。

問題点と対策:上記のd, t, lと同じく、g, k, hも最初は〈ga〉, 〈ka〉, 〈ha〉から入ったほうが習得しやすい。有気音になってしまう人がいるが、矯正する時に、日本語の〈が〉に近い〈ga〉から進めたほうがうまく行く。ただ中国語の〈ga〉の〈a〉はいわゆる〈央a〉(のどの中央部を使って発音する〈a〉)で、日本語の〈が〉よりのどのもう少し前の部分を使って発音する。

- k (e)** 舌の先を下歯茎に置き、舌根を持ち上げ、舌面は平らで、ある程度空気を貯めてから、強く空気を出して発音する。有気音。

問題点と対策:有気音をうまく発音できない人がいるが、日本語の

〈か〉に近い〈ka〉から進めたほうがうまく行く。〈ka〉は日本語の〈か〉とほぼ同じだが、中国語の〈ka〉はもう少しのどの奥を使って発音する。

- h (e)** 舌の先を舌の歯茎に置き、舌根を持ち上げ、舌面は平らです。舌根と軟口蓋を摩擦させて発音する。

問題点と対策：のどをかすらせて発音するわけですが、舌根と咽壁の摩擦にならないように気をつけることが大事だ。特に〈he〉の発音において、あまり極端にのどをかすらせて発音する必要はない（参考文献3 第7課）。

俳優や相声役者には〈he〉を極めて強くのどをかすらせて発音する人がいるが、真似をする必要はない。

- j (i)** 舌の先を下側の歯に置き、舌面の前部をやや持ち上げ、少し空気を貯めてから、努めて空気を出さないように発音する。無気音。

問題点と対策：これは無気音であって、濁音ではない。日本語の〈じ〉にならないように気をつける。

- q (i)** 舌の先を下側の歯に置き、舌面の前部をやや持ち上げ、ある程度空気を貯めてから、強く空気を吐き出しながら、発音する。有気音。

問題点と対策：これは有気音なので、空気が十分出ているかどうかを確認する。空気の十分出していない学習者には、導入部分として下の〈xi〉から入り、口の形や舌の位置を確認してから、空気をたくさん出すよう、指導する。

- x (i)** 舌の先を下側の歯に置き、舌面の前部をやや持ち上げてから発音する。

問題点と対策：日本語の〈し〉に非常に近いので、難しくない。ただ口をやや横へ伸ばす必要がある。

- zh (i)** 舌の先を硬口蓋に置き、少し空気を溜めてから、努めて空気を出さないように発音する。無気音。

問題点と対策：舌を十分に巻いているか、有気音になってはいないかを確認すれば良い。日本語にはまったくない発音なので、最初のうちは難しく感じるかもしれないが、〈zh (i)〉、〈ch (i)〉、〈sh (i)〉は少し時間をかけてやれば、たいていできるようになる。

- ch (i)** 舌の位置や発音の仕方は〈zh (i)〉と同じだが、有気音。

問題点と対策：舌を十分に巻いているか、空気もたくさん出ている

かを確認すればよい。

- sh (i) 舌の先を硬口蓋に置き、舌の中央部の両側が奥歯と接触しながら発音する。発音する時に、舌の先は硬口蓋に触れない。摩擦音。  
問題点と対策：この発音はさほど難しくない。舌を十分に巻いているかを確認すればよい。
- r (i) 舌の先を硬口蓋に置き、声帯をいくらか振動させながら発音する。摩擦音。  
問題点と対策：〈ri〉の発音は日本人学習者にとって、避けて通れないものである。使用頻度も高いので、入門の時点で一番悩む発音かもしれない。指導する時、舌を十分に巻いているかを確認する。英語の〈r〉の影響を受けて、〈ri〉の発音の時に、口を丸くして、〈u〉の音を軽く出してから、発音する人が近年かなり多い。最初から口を横へ伸ばし、その形を最後まで保つよう指示する。
- z (i) 舌の先を下の歯の裏に置き、舌の中央部の両側が奥歯と接触している。少し空気を溜めてから、努めて空気を出さないように発音する。無気音。  
問題点と対策：濁音にならないよう、気をつける。特に中国語の〈za〉と〈zu〉が〈ざ〉と〈ず〉にならないよう、注意する。
- c (i) 舌の先を下の歯の裏に置き、舌の中央部の両側が奥歯と接触している。ある程度空気を溜めてから、努めて空気をたくさん出すように発音する。動作は〈zi〉と同じだが、有気音。  
問題点と対策：これは歯を使った有気音だが、十分に空気を出していない人がかなり多い。日本人にとって、難しい発音の一つと言えるが、〈紙を揺らす方法〉で長く練習すれば、たいてい習得できる。
- s (i) 発音する時、舌の先を下の歯の裏に置き、舌の中央部の両側が奥歯と接触している。摩擦音。  
問題点と対策：〈sa〉は日本語の〈さ〉とほぼ同じなので、簡単に発音できる。ただ〈si〉と〈su〉の発音が〈し〉と〈す〉にならないよう、気をつける必要がある。

## 韻 母

## 単韻母

- a** 舌の先を下の歯茎に置き、舌は平らである。口を大きく開けて発音する。  
問題点と対策：いわゆる〈央 a〉だが、のどの中央部を使って発音する。日本語の〈あ〉はもう少しのどの奥を使って、口もさほど開かなくても、発音できるようだが、そうやって発音すると、中国人の耳からすれば、あいまいな音になっていることが多い。口を十分に開けるよう、指導する必要がある。
- o** 日本語の〈お〉とほぼ同じだが、口をきちんと丸く保つ必要がある。  
問題点と対策：日本語の〈お〉は口をきちんと丸くする必要はさほどないようだが、中国語の〈o〉は口をきちんと丸くしないときれいに発音できない。この点に注意する必要がある。
- e** 日本語の〈え〉に近い発音だが、口を少し横へ伸ばす必要がある。  
問題点と対策：日本語の〈え〉に非常に近いので、学習者もそのつもりで発音してしまうことが多いが、ただ日本語の〈え〉と比較して、少し口を横へ伸ばすよう、指導する必要がある。
- ê** 口をいくらか開けながら横へ伸ばし、舌の先は下の歯茎に置き、舌根を少し持ち上げ、のどの奥を使って発音する。  
問題点と対策：日本語にはまったくない発音なので、最初のうちはなかなかうまくいかないが、上記の口の形とのどの奥を使って発音するという基本的なルールを守り、ある程度練習すれば、たいていできるようになる。初めから最後まで口の形を保つことがポイントと言える。
- i** 舌の先を下の歯の後ろに置き、舌面を持ち上げて、口をいくらか開けながらやや横へ伸ばして発音する。  
問題点と対策：日本語の〈い〉に近い発音だが、口をやや横へ伸ばす必要がある。  
もう一つあまり目立たないことだが、日本語の〈い〉は舌のかなり奥の部分を使って発音するのに対して、中国語の〈i〉は舌の前部を使って発音する。このことは後ほど出て来る〈ing〉でその違いがはっきりとする。中国語の〈i〉は音節初頭に來た際、強い摩擦音となる。〈参考

文献2のp.83)

- u** 口を丸くして、舌の先は下の歯茎に置きながら発音する。  
問題点と対策：日本語の〈u〉に近い発音だが、口をきちんと丸くする必要がある。
- ü** 口をすぼめ（上下の唇を前へ伸ばすこと）、舌の先を舌の歯の後ろに置き、舌面を持ち上げて発音する。  
問題点と対策：日本語にはない音なので、最初はなかなかできない。大事なのは口をすぼめることにある。ややもすると〈u〉と〈ü〉の間のような発音になりがちだが、原因は口を最初から最後まですぼめていないからである。これをきちんと守ってもらえばたいいできるようになる。
- er** この単韻母の発音は声調によって、発音の仕方が変わり、分けて考える必要がある（参考文献3の第10課）。  
1, 2, 3声は次のように発音する。前出のeの形から、舌を90°巻く。舌が上の歯に達した所から発音する。舌が硬口蓋と接触してはならない。4声の〈二〉の意味として使われる）場合は別の発音の仕方をする。口の形と舌の動きは同じだが、舌を巻くと同時に〈a〉の発音をして、舌が上の歯に達した所から、上記の発音に変わる。  
問題点と対策：声調によって、発音の仕方が違うので、十分に説明する必要がある。ある程度練習すれば、できるようになるが、むしろ後出の〈r化〉の一部として使われる時に多くの問題が生じる。

### 複韻母

- ai** 〈前 a〉（のどの前部）を使って発音する。  
問題点と対策：英語の〈i〉とほぼ同じだが、ただ口を大きく開け、〈a〉の部分をつくらか長く発音する必要がある。〈a〉と〈i〉の合成音にならないように注意する。
- ei** 舌の先を下歯の後ろに置き、口をいくらか開け、舌面をやや持ち上げて発音する。  
問題点と対策：英語の発音記号〈ei〉とほぼ同じなので、問題ない。
- ao** 〈後 a〉（のどの後部）を使って発音する。  
問題点と対策：英語の発音記号〈ao〉とほぼ同じだが、〈後 a〉からス

タートすることに注意する。

- ou** 口を丸くして、唇の丸を徐々に縮めながら発音する。

問題点と対策：口を丸くしたまま発音する人が多いが、唇の丸を徐々に縮めながら発音するのがポイントです。英語の発音記号〈ou〉との違いもそこにある。

- ia** 〈i〉と〈a〉の合成音だが、主要音節は〈a〉である。〈i〉と〈a〉の長さの比率は4:6です（参考文献4）。

単独で音節になる場合（ya）、最初の〈i〉はかなり強い摩擦音になる。問題点と対策：〈i〉は短いが省略してはならない。たとえば〈jia〉の発音が〈じゃ〉にならないように気をつける。

- ie** 〈i〉と〈e〉の合成音だが、口を少し横に開いて、さらに横へ伸ばしながら、その間に発音する。〈i〉と〈e〉の長さの比率は4:6である（参考文献4）。単独で音節になる場合（ye）、最初の〈i〉はかなり強い摩擦音になる。

問題点と対策：主要音節は〈e〉ですが、〈i〉は短いけれども、省いてはならない。

- ua** 〈u〉と〈a〉の合成音だが、〈u〉からスタートして、すぐに〈a〉に変わる。〈u〉と〈a〉の長さの比率は4:6である（参考文献4）。

問題点と対策：スタートの時点で、口が丸くなっているか、最後は〈a〉の発音なので、口をある程度開けているかどうかポイントになる。

- uo** 〈u〉と〈o〉の合成音だが、〈u〉からスタートして、〈o〉で終わっているので、口の動きは丸い形を保ったまま、少し開ける形になる。〈u〉と〈o〉の長さの比率は4:6です（参考文献4）。

問題点と対策：口が上記の動きをしているかどうかポイントになる。特に声母の付く場合、忘れがちなので、注意する必要がある。

- üe** 〈ü〉と〈e〉の合成音だが、〈ü〉からスタートして、〈e〉で終わっているので、口の動きはすぼめた形から、少し横へ伸ばす形になる。〈ü〉と〈e〉の長さの比率は4:6です（参考文献4）。

問題点と対策：口の動きが出来ていれば、たいてい発音できる。経験から言って、ほとんど〈ü〉の発音が出来ていないので、それが原因でうまくできない人が多い。

- iao** 〈i〉と〈ao〉の合成音だが、〈i〉から〈ao〉へと移行する時、口は

やや横の形からスタートして、いくらか開けてから、最後はすぼめる形になる。この動きはスムーズに、素早く行う必要がある。単独で音節になる場合〈yao〉は最初の〈i〉はかなり強い摩擦音になる。

問題点と対策：口の動きが出来ているか、〈a〉の部分が発音する時に、口を開け過ぎないかを注意する。日本語の〈や〉+〈お〉にならないよう、気をつける。

**iou** この発音はなかなか複雑で、単独で音節になる場合と、声母のつく場合と分けて考える必要がある。

単独で音節になる場合〈you〉、1声は日本語の〈ゆ〉のような音になる。2声、3声、4声は〈i〉と〈ou〉の合成音になる（参考文献3 第8課）。声母のつく場合は標記が〈iu〉と変わる。理論上省略された真ん中の〈o〉も発音しなくてはならないのだが、実際は大変複雑だ。3声においては、〈o〉が比較的顕著に残るが（たとえば niu, liu, jiu, qiu, xiu 等）、ところが1声（diu, niu, liu, jiu, qiu, xiu）、2声（niu, liu, qiu）、4声（miu, niu, jiu, xiu）においては、〈o〉がほとんど消えてしまっている。僅かに（liu）の4声に〈o〉がいくらか残っている感じである。

問題点と対策：教える側が上記のことを認識しているかどうかが先ず問題になる。中国南部の一部の人たちはどんな場合でも〈o〉を強く残す傾向があるので、矯正するのにいつもかなり苦勞している。上記の発音の変化が分かっているならば、さほど難しい発音ではない。

**uai** 〈u〉と〈ai〉の合成音。口の形は最初は丸く、それからいくらか開け、最後はやや横へ伸ばす形になる。

問題点と対策：声母のつく場合、口を丸くするのを良く忘れるので、それさえ注意すれば、ほとんど問題なく発音できる。

**uei** 〈u〉と〈ei〉の合成音。口の形は丸い形からスタートして、やや横へ伸ばせばよい。

問題点と対策：単独の音節の場合は〈wei〉と標記し、前に声母の付く場合は標記が〈ui〉と変わる。この変化をよく認識してもらうことが大事だ。声母の付く場合、〈u〉が入っているのに、口を丸くするのを忘れがち。この点さえ注意すれば、発音できる。

## 鼻韻母

- an** 〈a〉の発音からスタートして、大きく開けた口をいくらか収斂し、最後に舌を上歯の後ろに置き、軽く鼻に掛ける（鼻に空気を通す）。問題点と対策：口を大きく開けているかどうか、最後に舌を上歯の後ろに置いているかどうかポイントになる。問題がある場合は、日本語の〈あ〉になっていたり、舌が宙ぶらりんになっていたりすることが多い。
- ang** 〈後 a〉（のどの後部から発する〈a〉）からスタートして、大きく開けた口をいくらか収斂し、鼻に掛ける。この全過程に置いて、舌はどことも接触しない。問題点と対策：口を十分に開いていないため、曖昧な〈a〉になっていることが多い。舌が発音する過程に置いてどこかと接触していることも多く、この二つがうまく発音できない重要な原因となっている。これらさえ克服すれば、発音できる。
- en** まず〈央 e〉（のどの中央部から発する〈e〉）の発音をして、言い終わった後、舌の先を下歯の後ろに置く。口の形は〈e〉の発音のまま、閉ざしてはならない。問題点と対策：口の形が〈e〉からスタートしているか、言い終わった後、舌が下の歯の後ろに置いているかを確認する。この2点がポイントになる。
- eng** まず〈央 e〉の発音をして、それから鼻に掛ける（ngの発音をする）。全過程において、舌はどことも接触しない。問題点と対策：口の形が〈央 e〉の発音のままで、最初から最後まで変わらない。舌も宙ぶらりんになっていることが大事である。うまくできない人はほとんど口の形が途中から変わってしまっていることに原因がある。
- an と ang 及び en と eng の違いが良く話題になる。口の動きを見せれば、違いが分かり、発音できるようになるが、聞き取りにおいては、なかなか区別ができないようである。日本語にはこれに近い発音として〈ん〉しかないのが、難しくしているのかもしれない。何度も聞かせて、慣れてもらうしかない。
- in** まず〈yi〉の発音をして、それから舌の先を上歯の後ろにおけばよ

い。口の形は〈yi〉の発音のまま。

問題点と対策：声母の付く場合は、舌を上歯の後ろに置いているかどうかを確認すればよい。単独の音節になっている場合は〈yin〉と標記するが、最初の〈yi〉はかなり強い摩擦音になる。学習者はどうしても〈い〉のつもりで発音するので、中国人の耳には摩擦のない音に聞こえてしまう。発音する時に、舌の前部と硬口蓋の前部を使って、摩擦音を作り出すことが大事だ。

ing まず〈yi〉の発音をして、舌根を持ち上げ、鼻に掛ける（ngの発音をする）。始めから終わりまで、舌はどことも接触しない。口はやや横へ伸ばした形を保つ。

問題点と対策：声母の付く場合は次の3点に注意すればよい。①舌はどことも接触していない。②口はやや横へ伸ばした形になっている。③鼻に掛けている。単独の音節になっている場合は〈ying〉と標記するが、最初の〈yi〉は大変強い摩擦音になっている。〈ing〉のために、ほかの〈i〉で始まる音よりもやや長く、それだけ摩擦も強く感じるのかもしれない。学習者はほとんど〈い〉のつもりで発音しているので、中国人の耳には大変違和感を感じる。舌の前部と硬口蓋の前部を使って、摩擦音を作り出せば解決できるわけだが、なかなかうまく行かない。いまだに妙手はなく、日本人にとって一番難しい発音となっている。

ian 〈i〉と〈an〉の組み合わせだが、〈an〉の〈a〉は〈a〉と発音せず、〈ε〉(e)と発音する。舌は言い終わった後、下の歯の後ろに置く。

問題点と対策：初心者には〈a〉の発音の変化を忘れ、〈やん〉と発音してしまう人が多い。〈i〉の発音は短く、軽いが、飛ばしてはならない。以上の2点に注意すればよい。

iang 〈i〉と〈ang〉の組み合わせです。口はやや横へ伸ばした形からある程度開ける。

問題点と対策：声母の付く場合と比較して、単独の音節になっている場合、口の開け方が少し大きい。声母の付く場合、〈i〉の発音は短く、軽いが、無視してはならない。

uan 〈u〉と〈an〉の組み合わせなので、〈u〉を発音した後、〈an〉を発音すればよい。

問題点と対策：口の形は最初は丸く、それから素早くやや横へ伸ばす。この動きをコンパクトに行う必要がある。問題になるのはほとんど口の形だ。〈u〉の発音は短く、軽い。

**uang** 〈u〉と〈ang〉の組み合わせなので、〈u〉を発音した後、〈ang〉を発音すればよい。

問題点と対策：口の形は最初は丸く、それから素早くある程度開ける。舌はどこにも接触しない。問題になるのはほとんど口の形だ。〈u〉の発音は短く、軽い。

**uen** 〈u〉と〈en〉の組み合わせだが、発音する時に、口を丸くして、それからやや横へ伸ばす。最後に舌を下の歯の後ろに置く。

問題点と対策：口を丸くしたまま発音する人が多い。それを矯正すればよい。単独の音節になっている場合、標記は〈wen〉となるが、声母の付く場合は〈un〉となる。

**ueng** 〈u〉と〈eng〉の組み合わせです。口を丸くして、やや横へ伸ばし、舌はどこにも接触しない。鼻に掛けて発音する（ngの発音する）。

問題点と対策：この発音の使用頻度は極めて低く、〈翁〉という字を読む時ぐらいしか使わないが、口を横へ伸ばして、そこで終わるという動作が一番大事だ。

**üan** 〈ü〉と〈an〉の組み合わせだが、〈a〉はここでは〈a〉と読まず、ほとんど〈ε〉(e)（参考文献4のp.105）と発音する。口をすぼめてから、普通の状態に戻し、最後に舌を下の歯の後ろに置く。

問題点と対策：〈an〉の〈a〉をそのまま〈a〉と発音する人がいる。役者や相声役者などに散見するが、今日ではむしろ少数派である。それも単独で音節になっている場合（yuan）に限られる。声母（j, q, x）の付く場合はすべて〈ε〉(e)の発音となる。上記の事実を認識していれば、発音はさほど難しくない。

**ün** 〈ü〉からスタートして、最後に舌の先を上歯の後ろに置けばよい。口は最初から最後まで丸い形を保つ必要がある。

問題点と対策：〈ü〉の発音ができれば、簡単に発音できる。

uan, uen, üan, ünの口の動きについて：uan, uenとüanは丸い形からスタートして、普通の形に戻りながら発音するが、ünは口を丸くしたまま発音する。この違いをはっきりと認識する必要がある。

**ong** 口を丸くしたまま、舌はどことも接触しない。鼻に掛けて発音する(ngの発音する)。

問題点と対策：ongは単独で発音されることはないので、声母をつけて練習したほうが習得しやすい。例えばdong, tong, long, hongなどである。口の丸い形を最後まで守り、舌も宙ぶらりんの状態を保てば、楽に発音できる。

**iong** 〈i〉と〈ong〉の組み合わせだが、〈i〉は軽く、短い。しかも後ろの〈ong〉の影響を受けて、最初から口を丸くして発音する(参考文献5のp.105及び参考文献3の16課)。

問題点と対策：単独で音節になっている場合、標記は〈yong〉となるので、口も最初から丸くなる。声母の付く場合(qiong, xiongなど)、〈i〉を見て、最初から丸くしない人がかなりいるが、これは一種の例外だと説明して、口を丸くしたまま発音することを指導する必要がある。

## 声 調

中国語の声調の基本は良く知られていることなので、簡単に記しておく。

第一声：高くて、平らである。中国ではド、レ、ミ、ファ、ソをよく1, 2, 3, 4, 5と標記しますが、これで表すと55となる。

第二声：真ん中から上げていく。一気に上げていく必要があります。35となる。

第三声：真ん中から下げて、そらから上げていく。全体的にトーンが比較的長い。214となる。

第三声にはもう一つ半三声がある。真ん中から下げて、上げないで、最後まで低いまです。211となる。

第四声：高いところから、鋭く下げていく。51となります。

第一声から第四声まで、少し練習を積み重ねれば、たいていの人は習得するが、半三声だけはやや面倒だ。三声は後ろに音節があると、すべて半三声になる。文中でもほとんど半三声になり、単音節の場合、強調及び文末に置かれた時にだ

け普通の三声になる（参考文献4, p.121）。ところが、教室においてはほとんど第三声から入り、それができるようになってから、半三声を導入する。また漢語ピンインの標記も〈ˇ〉を使っているので、ますます学習者に間違っただけ的印象を与えることになる（参考文献5, p.88）。そのため、初心者に対しては、早めに半三声を導入し、三声の上記の特徴をできるだけ早く説明したほうが効果的だ。

### 軽 声

軽声はその部分をいくらか弱く読めば良いのだが、前のことばの声調によって、トーンに若干の違いがある。

第一声と第二声の後の軽声はトーンが低く、なんとなく第四声を弱くした発音に聞こえる。例：窗户，明白（5度法の2に相当する）。

第四声の後の軽声はトーンが一番低い。例：护士，任务（5度法の1に相当する）。

第三声の後の軽声はトーンが一番高い。例：耳朵，老实（5度法の4に相当する）。

軽声は中国語の発音において大きな要素になっている。5文字から7文字のうち、1つは軽声とされている（参考文献6, p.111）。発音自体、さほど難しいものではないが、外国語として習得する場合、どの程度覚えればよいのか、範囲を決める必要がある。ここでは1992年に制定された〈汉语水平词汇与汉字等级大纲〉の単語を対象にした。この〈大纲〉に出てくる単語数は8,822個で、中国の〈汉语水平考试〉（HSK）の範囲とされている。参考文献1, 7, 8を元に下記のリストを作成したが、7の編集者のような専門家でも、かなりミスをしている。（例えば‘乡下’）中国人でも一々覚えるしかないもので、やはり面倒だ。

軽声と標記されている語彙のうち、下記のを省略した。

- (1) 語気助詞；‘了’など。
- (2) アスペクトとして使われる；‘的，得，着’。
- (3) 方向補語の一部として使われる；‘来，去，上’。
- (4) 接尾語として使われる；‘子’。例えば‘村子’など。
- (5) 接尾語として使われる；‘头’。例えば‘木头’など。
- (6) 接尾語として使われる；‘个’。

- (7) 同じ字を重ねた名詞。例えば；‘爸爸’など。  
 (8) 動詞と補語の間の；‘不’。  
 (9) 方角などを示す；‘边，面，头，里，上’。  
 (10) 複数を示す；‘们’。

現代漢語辞典（2002年増補本）は轻声を2種類に分けている。常に轻声になる単語は中黒（・）を使って声調を付けなくて標記し、声調を付けて読むこともある単語については、中黒を使って、声調を付けて標記している。しかし、後者に属する単語でも、実際問題として、轻声に発音するのが普通である。下記のリストにおいては、これに属する単語には（ ）を付けた。《 》はその単語がそういう意味で使われる時に轻声になることを示す。

爱人，巴结，把手，（白天），包袱，报酬，（本钱），本事《本领》，比方，别人，别扭，玻璃，不好意思，不是〈过错〉，不在乎，不怎么样，部分，裁缝，（残疾），苍蝇，差不多，长处，称呼，（成分），（诚实），尺寸，抽屉，出息，窗户，伺候，（聪明），凑合，（粗鲁），答应，（答复），打扮，打发，打量，打算，打听，打招呼，大方《不吝啬》，大人《成年人》，大意《疏忽》，大夫，耽误，叨唠，倒腾，道理，…的话，得很，灯笼，底下，地道，地方《空间》，地下《地面上》，弟兄，点心，东西，动静，豆腐，短处，队伍，对不起，对得起，对付，多么，多少，哆嗦，恶心，耳朵，发脾气，反正〈副詞〉，费用，分寸，吩咐，分量，风筝，（夫人），（父亲），富余，甘蔗，（感激），高粱，告诉，胳膊，胳膊，疙瘩，格式，跟头，工夫，工钱，功夫，公道，（公平），姑娘，骨头，故事，寡妇，怪不得，棺材，罐头，规矩，闺女，还是，害处，含糊，好处，核桃，和气，和尚，合同，恨不得，（喉咙），葫芦，胡同（固有名詞の一部として使われる時），糊涂，狐狸，护士，花费（動詞），坏处，（荒唐），（慌张），黄瓜，（活动），活泼，伙计，（伙食），祸害，（机会），机灵，（机器），脊梁，记性，家伙，（家具），价钱，见识，（娇气），讲究，叫唤，教训，街坊，结实，精神，觉得，（看望），（看法），咳嗽，客气，客人，（孔雀），口袋，窟窿，快活，宽敞，困难，喇叭，老大爷《大爷》，老婆《妻子》，老人家，老实，（老鼠），老爷，篱笆，（理事），利害（厉害），力量，力气，粮食，凉快，（伶俐），（啰唆），萝卜，逻辑，骆驼，麻烦，码头，马虎，买卖，馒头，毛病，玫瑰，没关系，没什么，眉毛，迷糊，（迷惑），棉花，免得，明白，名字，（摸索），蘑菇，模糊，（母亲），木匠，那么，脑袋，闹笑话，念头，暖和，（佩服），朋友，脾气，屁股，便宜，漂亮，葡萄，欺负，亲戚，清楚，（轻易），情形，（情

绪), 拳头, 人性, 热闹, 人家《别人, 自己》, 任务, 认得, 认识, 商量, 晌午, 烧饼, 舌头, 身份, 什么, 什么的, (神气), (神仙), 生意, 牲口, 省得, 师傅, 时候, 使得, 似的, 势力, 事情, 是的《=似的》, 收成, 收拾, (手巾), 舒服, 疏忽, 书记, 爽快, 说法, 斯文, (似乎), (算盘), 岁数, (孙女), 踏实, 态度, 特务, (提拔), (体谅)(体面), (替换), (调和), (听见), (痛快), 头发, (徒弟), 妥当, 唾沫, 晚上, 尾巴, 委屈, 味道, 位置, 为什么, 稳当, 窝囊, 喜欢, 喜鹊, 先生, 乡下, 想法, 相声, 消息, (小姐), 笑话, (心事), 心思, (新鲜), 行李, 休息, (絮叨), 学生, 学问, 眼睛, 养活, 要么, 要是, 钥匙, (夜间), 夜里, 衣服, 衣裳, 已经, 意思, (因为), 应酬, (应付), 用处, 有时候, 有意思, 冤枉, (愿意), (约会), 月亮, 云彩, 运气, 在乎, 早晨, 早上, 怎么, 怎么样, 怎么着, 扎实, 丈夫, 招呼, (照顾), 照应, 折腾, (折磨), 这么, 这么着, 真是, 真是的, 枕头, 正经, (支撑), 芝麻, (知道), 知识, 指甲, 指头, 指望, 主意, (嘱咐), 庄稼, (资格), 嘴巴, 琢磨,

参考文献 1 によれば, 現代漢語辞典の軽声の基準はかなり甘いと指摘している。今日の‘北京語’の発音からすれば, 確かにその通りなので, 上記の〈大綱〉の範囲内で, 軽声のリストを追加した。

爱惜, 把柄, 把握, 把戏, 宝贝〈‘珍宝’ という意味で使われる時〉, 报复, 抱负, 抱怨, 本领, 鼻涕, 弊病, 编辑, 不至于, 布置, 参谋, 测验, 常识, 沉着, 成绩, 迟疑, 冲突, 春天, 次序, 刺激, 错误, 待遇, 掂记, 叮嘱, 冬瓜, 冬天, 董事, 端正(形容詞), 繁殖, 仿佛, 废物, 分析, 风气, 凤凰, 富裕, 干净, 干部, 高明, 攻击, 固执, 顾虑, 规模, 过失, 痕迹, 后来, 后天, 户口, 欢腾, 贿赂, 技术, 计较, 纪律, 寂寞, 家务, 将军, 教育, 较量, 阶级, 近视, 经验(動詞), 救济, 控制, 夸奖, 会计, 亏待, 栏杆, 牢骚, 老成, 理由, 利息, 联系, 练习(動詞), 良心, 邻居, 零碎, 龙头, 埋怨, 秘书, 面积, 面目, 命令, 摩托, 模样儿, 目的, 目录, 能干, 年纪, 女儿, 批评, 皮肤, 齐全, 气氛, 气候, 气力, 气味, 气息, 迁就, 亲戚, 人物, 容易, 柔和, 奢侈, 生疏, 声音, 施展, 实惠, 事故, 是非〈‘纠纷’ という意味で使われる時〉, 试验, 手势, 手工艺, 书籍, 熟悉, 搜索, 损失, 太阳, 题目, 体贴, 威风, 维持, 文凭, 物质, 误会, 西瓜, 夏天, 嫌疑, 贤惠, 乡亲, 孝顺, 信用, 烟囱, 研究, 要不, 业务, 疑惑, 义务, 艺术, 意识, 意味, 英雄, 犹豫, 玉米, 愿望, 在意, 整齐, 支持, 蜘蛛, 至于, 制度, 秩序, 姿势,

自然〈形容詞〉, 组织。

最後に, 人称代名詞が目的語として使われる時, 発音が軽声になる。(参考文献 9, p. 36) この点にも注意する必要がある。

请你来给我们讲讲。(‘你’ と ‘我们’)

叫他别喊了。(‘他’)

## 儿 化

1. ‘i, n’ のあとに ‘r’ が付くと, i, n の部分が消え, 前の韻母は基本的に変わらないが, 舌を巻く必要がある。

問題点と対策: 上記のことを認識していれば, 簡単に発音できる。但し, ‘ian’ の場合, ‘a’ は元の ‘央 a’ に戻ることには注意する。

2. ‘o’ のあとに ‘r’ が付くと, 発音と同時に舌を巻く。

問題点と対策: 上の指示の通り発音すればよい。さほど難しくない。

## 参考文献

1. 「軽声和儿化」魯允中著, 商務印書館
2. 「対日漢語語音教程」続三義編, 北京語言文化大学出版社
3. 「虹云教你普通话」北京威翔音像出版社
4. 「〈北京話複合元音的實驗研究〉」曹劍芬, 楊順安, 〈中国語文〉, 1984 年第 6 期。
5. 「漢語普通話語音圖解課本(教師用書)」金曉達 劉広徽編著, 北京語言文化大学出版社
6. 「漢語發音與糾音」曹文編著, 北京大学出版社
7. 「HSK 中国漢語水平考試詞匯大綱, 漢語 8000 詞典」北京語言文化大學 漢語水平考試中心編, 北京大學語言文化大學出版社
8. 「現代漢語詞典 2002 年增補本」商務印書館
9. 「中級漢語口語」下冊 劉德聯 劉曉雨編著, 北京大學出版社

発音の確認に使用したテープ, CD, VCD や DVD は下記の通り。

1. 「対日漢語語音教程の録音テープ」北京語言文化大學出版社
2. 「虹云教你普通话」威翔音像出版社
3. 「漢語發音與糾音の録音テープ」北京大學出版社
4. 「漢語語音教程(基礎編)」何平〈主編〉, 北京大學出版社  
上記の付属 CD
5. 「漢語正音教程」王若江編著, 北京大學出版社

148

上記の付属 CD

6. 「普通話培訓測試教程」邢捍国編著，北京大学出版社

上記の付属 CD

7. 「普通话水平测试训练」西南师范大学音像出版社

8. 「标准普通话《水平测试标准训练》」厦门音像出版社

(中国語教授法・法学部教授)